

「芋川の歴史を歩く」

城山から戸谷峰へ

飯綱町芋川地区の中心部の低地には、芋川氏の館跡があります。この館跡は、平安時代に芋川^{いもがわ}荘^{しょう}の政所^{まんどころ}であったところといわれ、後にその荘司^{しょうじ}の子孫にあたる豪族芋川氏の居館もこの近くにありました。今は堀の家^{うち}（森家）と称する一軒家があって、家の北と西にし字形に土塁が残っており、現存する部分は東西方向に25メートル、南北方向に20メートルあります。2001年から行われた発掘調査では、漆器^{わん}・椀^{すずり}・硯^{ちやうす}・茶臼^すなど芋川氏に関係したと思われるものも出土しています¹²⁾。

また、山の上には中世の山城跡があります。中でも鼻見城^{はなみじょうし}址は展望がすばらしく、ぜひ訪れたいところです。山の北側から車で登れば、歩いて数分で本丸跡へ着きます。標高722.7メートル



鼻見城址から三水の田園を見下ろす

の鼻見城山の頂に構築されたこの山城は、奥信濃で大きな勢力を持っていた芋川氏^{とりで}の砦^{とりで}でした。本丸跡は東西25メートル、南北6メートルの楕円形^{だえんけい}で、土塁の跡はなく平たんです。眼下には三水の田園風景、南に髻山、東に千曲川、その向こうには菅平^{すがだいら}や笠岳^{かさだけ}の山々が一望できます。

若宮城^{わかみやじょうし}址は登るのに少しばかり労を要します。南側の若宮